

電気学会 電気規格調査会標準規格  
 JEC-2200-1995「変圧器」 正誤票－3  
 (2007年10月20日第1版第4刷発行)

発行日：2008年12月3日

項番	頁	箇所	誤	正
1	43	下から8行目	$\theta e$	$\theta c$

<補足> 43頁の 下から9行目と8行目の正しい記述は以下の通り。

無負荷損のみの試験では定常状態になるまで定格電圧で励磁し、各々の巻線温度上昇値 $\theta e$ を測定する。  
 上記試験後の次に短絡接続として定格電流を定常状態になるまで通じ、各々の巻線温度上昇値 $\theta c$ を測定する。

電気学会 電気規格調査会標準規格  
 JEC-2200-1995「変圧器」 正誤票－2  
 (2003年4月10日第1版第3刷発行)

項番	頁	箇所	誤	正
1	43	下から8行目	上記試験後、ただちに	上記試験の次に
2	43	下から9行目	$\theta c$	$\theta e$
3	95	下から13行目	それに等しい。	それにほぼ等しい。

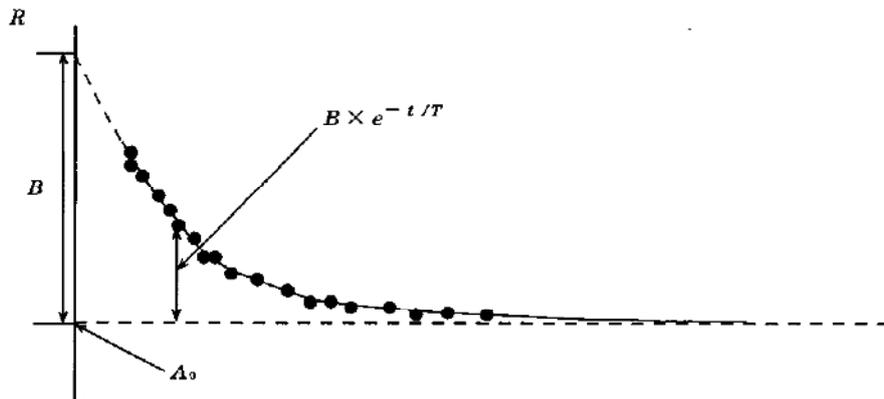
<補足> 43頁の 下から9行目と8行目の正しい記述は以下の通り。

無負荷損のみの試験では定常状態になるまで定格電圧で励磁し、各々の巻線温度上昇値 $\theta e$ を測定する。  
上記試験後の次に短絡接続として定格電流を定常状態になるまで通じ、各々の巻線温度上昇値 $\theta c$ を測定する。

電気学会 電気規格調査会標準規格  
 JEC-2200-1995「変圧器」 正誤票－1  
 (1995年12月25日第1版第1刷発行)

JEC-2200 「変圧器」 正誤表

ページ	項目	誤	正
13	ト6行目	定格電圧は相間電圧すなわち $\sqrt{3}$ で割った値…	定格電圧は相電圧すなわち線路端子間電圧を $\sqrt{3}$ で割った値…
24	下7行目	3%以上のときは…	3%超過のときは…
25	下2行目	周囲温度および油温度を…	周囲温度および油またはガス温度を…
29	図 I-17, 21, 24 3箇所	$D_z n 0, Y_z 1, D_z 6$	$Dzn0, Yz1, Dz6$ (添字でなく小文字とする)
37	表 II-1 中	$300^\circ\text{C}^{(1)}$ 以下の合成液体	$300^\circ\text{C}^{(1)}$ 以下の絶縁液体
38	表 II-2 中 ONAN/ONAF 欄	(鉄油使用の場合)	削除
43	下9行目	$\theta_c$	$\theta_e$
48	表 III-4		公称電圧 3.3~33, 110~275kV の行間を区分する。添付 表 III-4
53	表 III-5		公称電圧 3.3~33, 110~275kV の行間を区分する。添付 表 III-5
		中性点 6.6 kV の $H_0$ 寸法 60	中性点 6.6 kV の $H_0$ 寸法 65
61	下2行目 3, 2 項	注 <sup>(1)</sup> の位置	下5行目 基準タップで測定する <sup>(1)</sup> に移す。
68	図 V-3		図中 $\frac{1}{2}h$ の所に $\frac{1}{2}$ が抜けている。
71	8 行目	$P$ : 抵抗損以外の負荷損	$P_a$ : 抵抗損以外の負荷損
72	附属書図 1		測定点のプロットを追加 添付 附属書図 1
75~76	下 16 行目他 10 箇所	$l_m$	$l_m$
90	参考 2	$W'_S = \dots$ $0.45 \times 4500 - 0.45 \times 4400 = 952.5 (\text{kW})$ $W'_C = \dots$ $0.45 \times 4500 + 0.45 \times 4400 = 247.5$ $W'_T = \dots$ $4500 + \frac{2 \times 0.45 - 1}{0.45} \times 4400 = 3177.8$ $W = W'_S + W'_C + W'_T =$ $952.5 + 1244 \times 247.5 + 3177.8 \times \left(\frac{150}{500}\right)^2$ $= 952.5 + 307.9 + 286.0 = 1546.4 (\text{kW})$	$W_S = \dots$ $0.45 \times 4400 - 0.45 \times 4500 = 907.5 (\text{kW})$ $W_C = \dots$ $0.45 \times 4400 + 0.45 \times 4500 = 292.5$ $W_T = \dots$ $4400 + \frac{2 \times 0.45 - 1}{0.45} \times 4500 = 3055.6$ $W = W_S + W_C + W_T =$ $907.5 + 1244 \times 292.5 + 3055.6 \times \left(\frac{150}{500}\right)^2$ $= 907.5 + 363.9 + 275.0 = 1546.4 (\text{kW})$
96	参考図 8 たて軸	冷媒温度	冷却媒体温度



附属書図 1 負荷遮断後の巻線抵抗変化

$t$

表Ⅱ-4 中性点端子の試験電圧値<sup>(5)(6)</sup>

主回路の 公称電圧 (kV)	試験電圧値 (kV)	
	全波雷インパルス 耐電圧試験	短時間交流耐電圧試験 (実効値)
3.3	30	10
	45	16
6.6	45	16
	60	22
11	75	28
	90	
22	100	50
	125	
	150	
33	150	70
	170	
	200	
66	350	140
77	400	160
110	350 <sup>(7)</sup>	140 <sup>(7)</sup>
	550	230
154	450 <sup>(7)(8)</sup>	185 <sup>(7)(8)</sup>
	750	325
187	— <sup>(9)</sup>	70 <sup>(9)</sup>
	350 <sup>(10)</sup>	140 <sup>(10)</sup>
220	— <sup>(9)</sup>	70 <sup>(9)</sup>
	350 <sup>(10)</sup>	140 <sup>(10)</sup>
275	— <sup>(9)</sup>	70 <sup>(9)</sup>
	450 <sup>(10)</sup>	185 <sup>(10)</sup>
500	— <sup>(9)</sup>	70 <sup>(9)</sup>
	注(11)	注(11)

表Ⅱ-5 気中絶縁距離 ( $H_0$ ) および絶縁距離設定のための寸法 ( $H_1$ )

公称 電圧 (kV)	線路 端子				中性 点端子			
	試験電 圧値 (kV)		気中絶縁距離 ( $H_0$ )	絶縁距離 設定の ための 寸法 ( $H_1$ ) (mm)	試験電 圧値 (kV)		気中絶縁距離 ( $H_0$ )	絶縁距離 設定の ための 寸法 ( $H_1$ ) (mm)
	短時間 交 流 耐電圧 試 験	雷インパルス 耐電圧 試 験	最小値 (mm) (Ⅲ-3.1 (1), (2), (3) の 距離)		短時間 交 流 耐電圧 試 験	雷インパルス 耐電圧 試 験	最小値 (mm) (Ⅲ-3.1 (1) の距離)	
3.3	10	30	30	110	10	30	30	110
	16	45	45		16	45	45	
6.6	16	45	45	160	16	45	45	160
	22	60	65		22	60	65	
11	28	75	100	160	28	75	100	160
		90	110			90	110	
22	50	100	150	270	50	100	150	270
		125	225			125	225	
		150	225			150	225	
33	70	150	225	370	70	150	225	370
		170	315			170	315	
		200	330			200	330	
66	140	350	630	650	140	350	630	650
77	160	400	730	750	160	400	730	750
110	230	550	1,050	1,250	140	350	630	650
					230	550	1,050	1,250
154	325	750	1,450	1,500	185	450	840	900
					325	750	1,450	1,500
187	—	650	1,250	1,500	70	—	225	370
		750	1,450		140	350	630	650
220	—	750	1,450	2,210	70	—	225	370
		900	1,700		140	350	630	650
275	—	950	2,050	2,200	70	—	225	370
		1,050	2,050		185	450	840	900
500	—	1,300	注 (1)	4,950	70	—	225	370
		1,550	相間 対地 3,500 3,100		注 (2)			—